

2013年度 大阪女学院短期大学 事業報告

I. 建学の精神、教育理念

1. キリスト教プログラム

(1) 礼拝

授業実施日の1限終了後にチャペルにおいて毎日礼拝をおこなった。学生の司会・奏楽により進行し、教職員、Big Sisterの学生が奨励を担当した。2013年度は、178回の礼拝がもたれ、100回以上出席した4名の学生に青草賞学内行事活動賞が与えられた。礼拝が本学の中心的な教育の場であることをオリエンテーションや学生要覧により伝える一方、運用面では学生の自主的な出席に委ねていることから、1年次「キリスト教学」の授業において礼拝レポートを課すことにより、礼拝への出席を促す取組を続けている。

また、日常生活の中で聖書のみ言葉が働いていることに学生が気づくことが大切であると考えていることから、み言葉に触れるきっかけとして、従来の年間聖句に加えて、2014年度からは月間聖句を定め、日ごろから聖句に触れる環境を整えるとともに、毎月の誕生祝福礼拝を実施し、学生一人ひとりがより聖書に触れる機会を増やす取り組みを行う。

(2) リトリート

1年生は、2グループに分かれて、一泊二日(A:6/18-19、B:6/19-20)の日程で例年どおりアクティブプラザ 琵琶にてプログラムを実施した。日本基督教団大正めぐみ教会の上地武牧師を講師に招き、聖書の中の奇蹟物語のメッセージをグループごとに考えた。話し合ったことをパフォーマンスで発表し、上地牧師より聖書の解釈について解説をいただいた。また、各自で聖書を調べながら「聖書クイズ」に取り組み、聖書に親しむ取り組みをした。参加人数は102名であった。

2年生は、「聖書を土台とした生き方を通しての気づき」をテーマに6月18日(火)にプログラムを実施した。学内において細川ガラシヤがクリスチャンになった話を英語で聴き、所縁のあるマリア大聖堂を訪問した。愛餐の昼食後、なぜガラシヤが受洗を決心したのか、ガラシヤを救ったみ言葉を考え、学生自身がみ言葉に助けられた経験をわかった。参加人数は11名であった。

(3) クリスマス・キャンドルライト・サービス

12月14日(土)に実施。Vocal Ensemble Annaを招き、聖歌隊の讃美とハンドベル演奏とともに礼拝が進行された。卒業生や近隣の方々も出席する中、日本基督教団天満教会 春名康範牧師によりメッセージがとりつがれ、イエス・キリストの誕生を祝福した。司会の代わりに舞台上のスクリーンの指示で礼拝が進み、讃美歌の歌詞も投影する試みを行い、スムーズに進行することができた。また、在学生の出席率を高めるための工夫も試みたが、奉仕者以外の在学生の参加は例年並みであった。次年度は、日々の礼拝に新たな取り組みを取り入れることで、キリスト教関連行事への関心が高まることに期待する。

2. 人権教育講座

導入プログラム(10/16)では関根秀和氏より、「人権」という言葉が明らかにしようとしている「人の在り方」と、この言葉を根底から支える権限は何かに関する講演があった。

また、オープニングプログラム(10/23)では、関西韓国 YMCA の金君姫氏による韓国伝統楽器の演奏と舞踊が披露され、同団体の金弘明氏から解説を頂き、異文化交流を通じての相互理解について学習した。

さらに、今回開講した13の分科会(10/24、10/25)の内、5分科会でフィールドワークを実施した。コリアンタウンを訪問した学生たちからは、クロージングプログラムで(10/30)で日本に住む外国人の苦労を実感し双方にとってよい環境作りをしなければならないと発表された。

この人権教育講座にすべて出席して単位認定を受けた学生は77名だった。(内訳:1年生69名、2年生8名)2年生の参加率をあげることが今後の課題と感じた。

II. 学習支援・教育効果の改善

1. 新カリキュラムの点検・評価

2014年度に開設する「児童英語教育資格取得コース」「韓国語トライリンガルコース」の開講科目を確定し、韓国への短期語学留学についての準備を行った。

2. 学習支援の実質化と学習継続のための支援体制の再整備

キャンパス・アドバイザー制度の充実を計り、各学期にアドバイザーアワーを2回、面談を1回ずつ実施した。また、学習支援に資する学生カルテ/ポートフォリオの構築をスタートさせ、次年度以降の取組みとして継続する。

3. 図書館利用環境の整備

図書館の2013年度の主な取組みとして、同窓生の著作や関連資料を集めた「同窓生コーナー」を設置した。

また、図書館利用並びに学習環境のインフラ整備として、学習2014年度の図書館システム更新のための契約及びデータ移行等の準備を開始するとともに、文科省の補助金事業を利用し、館内のWiFi化工事及びPC9台の導入を行った。

なお教職員対象に9月より新着図書リストのメール配信案内を行っている。

4. 入学前学習支援・リメディアル教育の方策改善の必要

入学試験合格者に対して、11月から3月まで月一回の割合でスクーリングを実施した。プログラムの中心は、大学で学ぶことへの動機づけであるが、在校生や教職員との関わりの機会、入学予定者同士の交流や友人関係の形成のきっかけとなることも意図している。

また入学式に引き続いて、大阪女学院大学で学ぶことの意味と学び方を知ってもらい、ここで学習をスタートする決意を明確にするために、宿泊プログラムを含む8日間のオリエンテーションプログラムを実施した。

5. 学習時間の確保のための生活支援の新たな方策

2013年度に新たな3つの奨学金制度を設けた。

(1) Wilmina Spirit Scholarship(自律学修応援学費減免制度)

出席率90%以上の学生を対象とし、2013年度は春学期83名の内42名が応募し41名に支給、秋学期は83名の内31名が応募し、全員に支給した。

(2) 通学圏外学生支援奨学金

自宅が通学圏外である学生を対象とし、1年生7名、2年生以上1名に支給した。

6. 学生のニーズの把握と対応

学長主催の学長室アワー、アカデミック・アドバイザーによるアドバイザーアワーでの学習計画サポート、Tutor等による個別学習ニーズサポート、生活委員会・教務学生部による学生生活及び学生生活サポートを通して、学生の多様なニーズを聴き取り、これに対応している。

7. FD活動の展開

多様な学生の学習ニーズに応え、一人ひとりの学生が豊かな学習成果を獲得するための組織的なサポート力を得ることを目的とし、専任教員及び専任・嘱託職員を対象として、「大学教育の課題」、「アカデミック・アドバイジングによる学生支援の取り組み」、「ePortfolioと学修評価について」「ePortfolio OJLの使い方等について」の計4回にわたってFD/SDを開催した。

8. 社会貢献と結びつく参画授業・経験学習の充実

(1) 2012年10月より産官学連携で進めてきた地域貢献プロジェクト「玉造地区商店街活性化プロジェクト」に、学生4名の参画を得た。玉造商店街の一つひとつの商店に学生が出向き、店主の意向を聴き取り、1日分ずつデザインした「クーポン付き日めくりカレンダー」の制作を行った。参画した学生は店主の方たちと接する事で、社会の厳しさやコミュニケーションの難しさを学んだ。また、このプロジェクトで作成された「日めくりカレンダー」が朝日新聞、読売新聞、MBSラジオ、MBSテレビ、読売テレビ、NHK(全国)、朝日(全国)、大阪商工会議所、等のメディアで紹介され、本学のパブリシティ効果も得られた。

(2) エクステンションスクール

生涯学習の企画をウエルミナ・エクステンションスクールの再開という形で実現した。

開講クラス:春学期(2013.4~7月)9クラス 秋学期(2013.9~12月)7クラス

9. 編入支援活動の充実

一年時の個別面談を春学期から実施するなどの改善を図った結果、早くから受験に向けて取り組むことができ、大学進学者数は前年度と同じく10名であったが、複数の大学に合格した者に合格した者が増えた。また、国公立大学、関東の大学への合格者が出るなど、改善の効果が見られた。

10. 就職支援活動の充実

文部科学省2013年度学校基本調査では、短期大学生の就職先は医療・福祉系が48.4%であり、資格系の就職先が半数を占める。又、短期大学数が減少していることから、企業側は求人先を大学へシフトさせることを検討

している。

短期大学生の就職活動は、大学生より数ヶ月遅れてスタートすることから、個人面談の強化と企業研究会の実施により学生のモチベーション向上に取り組んだ。

2014年3月卒業生は卒業生数83名、就職希望者53名、就職決定者50名で、就職希望者に対し就職決定者は94.3%と良好な数字を残した。

(1) 就職決定状況

卒業生数	就職希望者	就職決定者	決定率
83	53	50	94.3%

(2) 業種別

業種	人	%
建設	1	2.0%
製造	7	14.0%
卸・小売	23	46.0%
金融	4	8.0%
不動産	0	0.0%
情報通信	0	0.0%
運輸・郵便業	4	8.0%
エネルギー	0	0.0%
教育・学習支援	0	0.0%
宿泊・飲食	0	0.0%
医療・福祉	3	6.0%
サービス	8	16.0%
その他団体	0	0.0%
公務員	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	50	100.0%

(3) 規模別

規模	件数	%
巨大規模	7	14.0%
大規模	8	16.0%
中規模	23	46.0%
小規模	7	14.0%
その他(規模)	5	10.0%
合計	50	100.0%

就職以外の進路

編入学	9
編入学準備	1
留学(準備含む)	1
ワーキングホリデー	
専門学校	3
聴講生・通信教育・公務員	
アルバイト	8
その他	8
合計	30

その他：(公務員試験準備2、家事1、連絡不通5)

巨大企業：

資本金100億円以上または従業員3000人以上

大企業：

資本金10億円以上または従業員1000人以上

中企業：

資本金1億円以上または従業員100人以上

小企業：

資本金1億円未満かつ従業員100人未満

11. Home Coming Day のスタート

創立より45年を経て約一万人の同窓生を擁するに至った本学の、同窓生一人ひとりの社会での活躍の状況、幅広い年代のそれぞれの生涯にわたる学習の必要と母校への期待について聴き取り、同窓生間、恩師や母校との新しい交流の場を設けるため、9月28日にHome Coming Dayを開催し64名の参加を得た。

III. 国際交流の充実

1. 受入機関の決定

2014年度よりスタートするトライリンガルコースの夏季研修先を梨花女子大学のEwha Language Centerに決定した。

2. 就職活動時期変更に伴う海外プログラム実施のタイミングの見直し

2014年度から就職活動の開始時期が変更されるため、従来1年次末の春期休暇中に実施していた異文化間リサーチ演習の現地研修を夏期休暇中に変更することとした。

3. 併設大学の交換留学生と本学学生との交流できる機会を多く持てるよう、イベントを開催した。

4. 派遣・交流状況

1) 海外への派遣状況

- (1) 地域研究(バングラデシュ) 9名
- (2) 異文化間リサーチ演習(オーストラリア) 11名
- 米国(Northwestern College) 2名

2) 提携校(元智大学)学生との交流プログラム

- (1) English Cultural Exchange 11名

IV. 研究活動

1. 学内研究会及び紀要の充実

(1) 学内研究会 :2014年2月12日に実施し、非常勤講師を含む教職員19名が出席した。

(2) 大阪女学院短期大学紀要第 43 号を発刊した。

2013 年 7 月に逝去された智原哲郎教授の追悼記念号として発刊。2012 年度より投稿数が増え充実したものとなった。

V. 運営・財務

1. 予算執行管理の強化と財務状況改善

学生募集の活性化と学生の就職活動支援(SPI 科目の強化)に力点を置いて、人員配置の見直しを行った。予算においては、人件費の削減と管理経費の抑制に努め管理の厳格化を推進した。

2. 運営体制の改革

タブレット型端末を用いた学習環境が全学生に行き渡ったことと、学習ポートフォリオの整備を行ったことから、学習・教育支援のための従来の CALL (Computer Assisted Language Learning) センターと LR (Learning Resource) センターを、新たに LSC (Learning Solution Center) として統合し、一貫した学習・教育支援体制に移行した。

3. アクティブなアドミッション活動による学生募集の推進

直接的に受験生にアピールするため、接触する機会を増やすことを心がけて取り組んだ。高校での説明会や専任教員による模擬授業の回数を増やし、高校3年生のみならず、1年生2年生の段階から直接、高校生に本学の魅力を伝える機会の確保に努めた。また、高校教員対象の説明会では、本学での iPad を活用した英語教育さらにアピールし、積極的に授業の公開を行うなど、先生方の本学の教育に対する信頼をさらに強固なものにすることに努めた。入学者数は3年ぶりに入学定員を超えることができた。「韓国語併習プログラム」の導入が大きく寄与したと思われる。また、一般入試等で新たに設けた特別給付奨学生 B(一般入試および大学センター試験利用入試の得点率 70%から以上 80%未満)の制度の導入も入学者数増にプラスに働いている。

一方、いわゆる年内の入学予定者数が、昨年並みにとどまっている。年内でより多くの入学予定者を確保するため、現在の入試制度の改善の検討を進めている。

4. 教育施設・学習設備の整備・改善

新規事業としては、平成 24 年度の補助金事業である「ICT 活用推進事業」において採択された「電子学修資源のモバイル学修活用システム整備」を行った。これにより、学生は本学教員が作成する生きた教材を各自のモバイル機器に格納して常に持ち歩けるようになり、場所や環境を選ばずに自主学習を進めることが可能となる。また、授業内ではIT機器を活用し、教員と学生間で自由に情報を共有する環境も整った。

上記以外には、2012 年度に引き続き、老朽化した施設・設備の更新に絞って対応を進めた。具体的には、20 年以上を経た図書館システム「CALIS」に替えて「Enju」に更新、17 年を経た LSC 学生参画支援ラボの教育系サーバー管理室の空調の更新などを行っている。

以上